

## (10) 物流の24時間化の動向

### 1) 時間帯別の出荷動向

出荷時間帯を0～6時、6～12時、12～18時、18～24時の4つに分類し、各々の時間帯における流動量比率についてみると、6～12時が58.0%と最も多く、以下、12～18時(28.9%)、0～6時(7.1%)、18～24時(6.0%)の順になっている。

業種別にみると、総じて6～12時および12～18時の比率が高いが、とくに鉱業では、6～12時の出荷の比率が82.0%と大半を占めている。

代表輸送機関別にみても、総じて6～12時および12～18時の比率が高いが、午後に集荷される割合が高い宅配便等混載、航空では12～18時の比率が各々61.4%、67.9%となっている。また、その他船舶、航空では、18～24時が各々22.1%、22.8%あり、他の輸送機関と比較して夜間の出荷において利用される比率が高くなっている。

品目別にみても、総じて6～12時および12～18時の割合が高いが、鉱産品については、6～12時の出荷の比率が80.4%と大半を占めているのに対し、他の品類に比べて宅配便等混載、航空の利用比率が高い雑工業品については、12～18時の出荷量が6～12時の出荷量を上回っている。

一方、従業員規模別にみると、49人以下の事業所と50人以上の事業所では、いくぶん態様が異なる。すなわち、前者においては、0～6時の出荷は少なく、6～12時の出荷の比率が高いのに対し、後者においては、0～6時の出荷の比率が1割を超えているほか、6～12時の出荷の比率と12～18時の出荷の比率がほぼ同じになっている。こうしたことから、規模の大きな事業所ほど、物流の24時間化の進展度合いが高まっていることが読み取れる(図3-3-47)。

### 2) 月別出荷波動

月別出荷波動とは、月ごとの出荷量の変動を示すために、1ヶ月当たりの平均出荷量(年間出荷量の12分の1)を1.00として各月の出荷量を指数化したものである。

月別出荷波動をみると、3月と12月に出荷のピークがある。逆に、正月休暇がある1月と、ゴールデンウィークがある5月、さらに旧盆休暇がある8月にボトムがある。発産業別にみると、4業種とも類似した波形を示しているが、鉱業と卸売業では、ピークとボトムの出荷水準の差が大きいのに対し、製造業および倉庫業では、ピークとボトムの出荷水準の差は比較的小さくなっている(図3-3-48)。

### 3) 曜日別出荷波動

曜日別出荷波動とは、曜日ごとの出荷量の変動を示すために、曜日当たりの平均出荷量(年間出荷量の7分の1)を1.00として各曜日の出荷量を指数化したものである。

曜日別出荷波動をみると、月曜から金曜の間では、月曜と金曜の出荷水準がやや高くなっている。発産業別にみると、いずれも、月曜から金曜の間では、月曜と金曜の出荷水準が高く、水曜日が最も低くなっている。ただし、鉱業および製造業は、卸売業および倉庫業よりも曜日間の格差が小さく、平準化していると言える(図3-3-49)。

図 3 - 3 - 47 出荷時間帯の状況

( 3 日間調査 単位 : % )

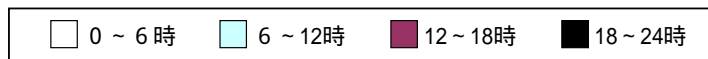
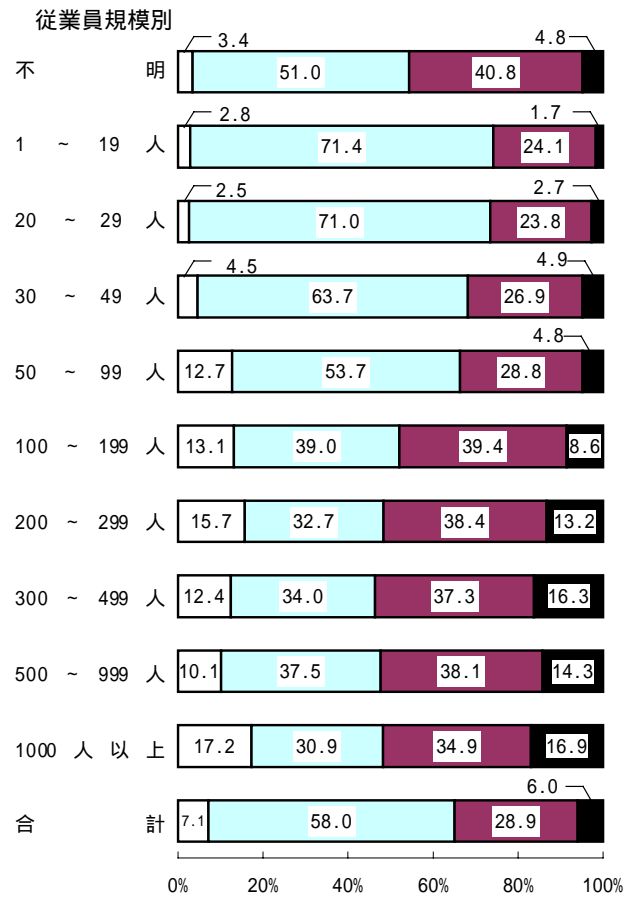
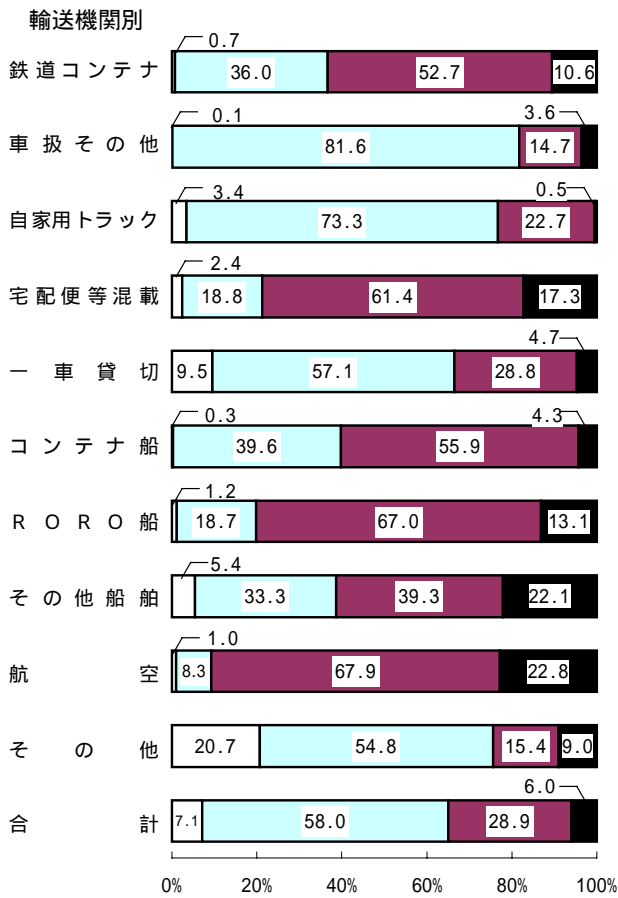
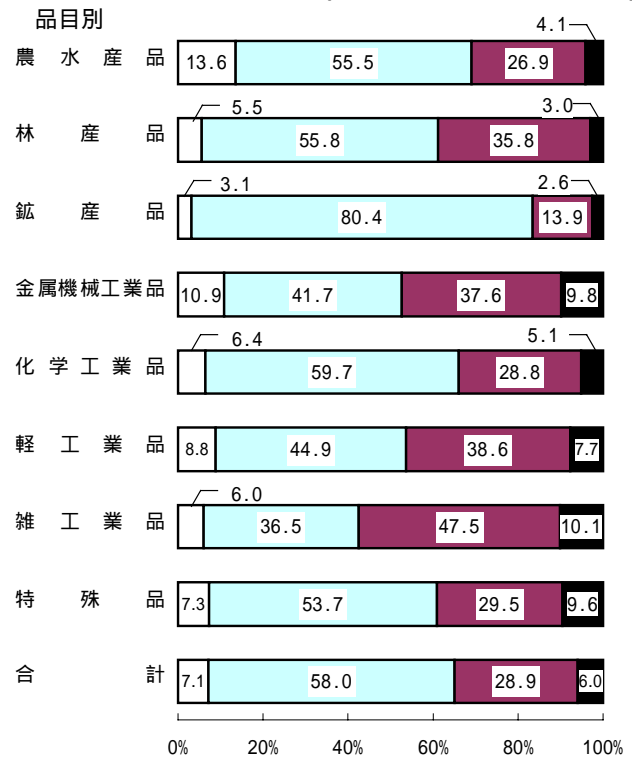
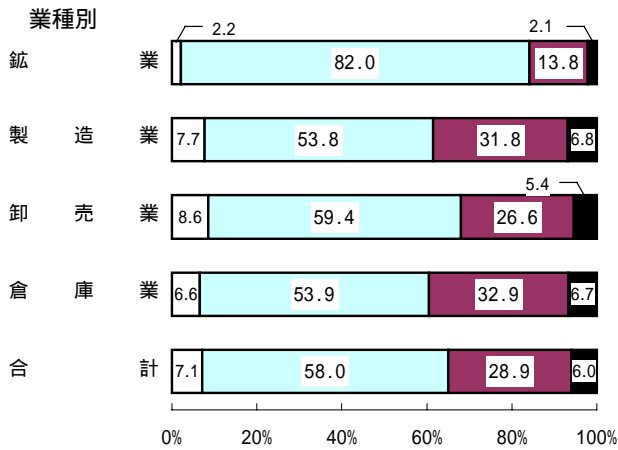
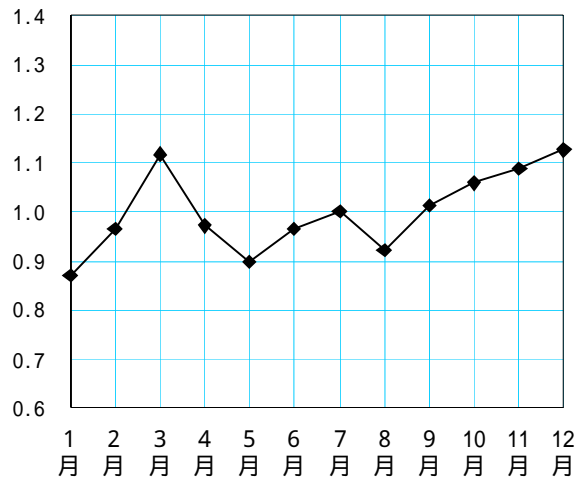


図3 - 3 - 48 発産業別にみた月別出荷波動（年間調査）

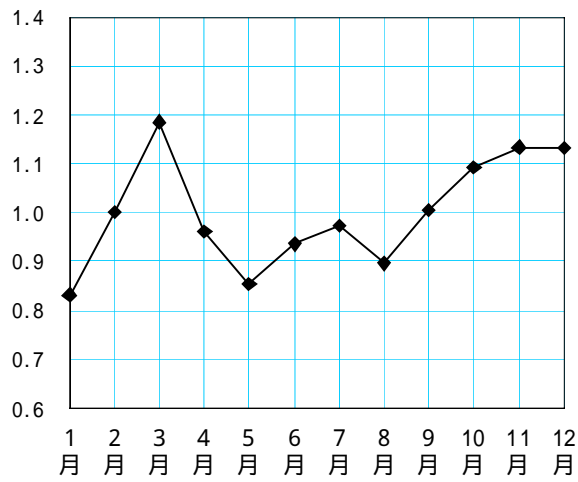
合計

(指数)



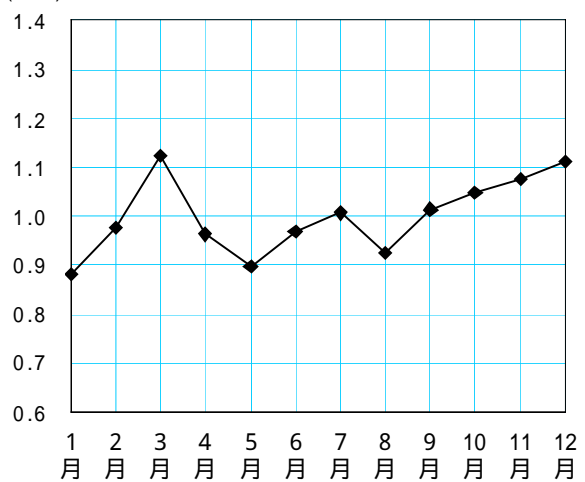
鉱業

(指数)



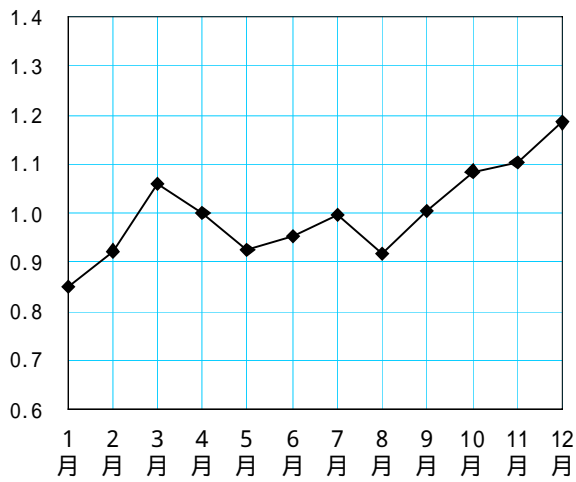
製造業

(指数)



卸売業

(指数)



倉庫業

(指数)

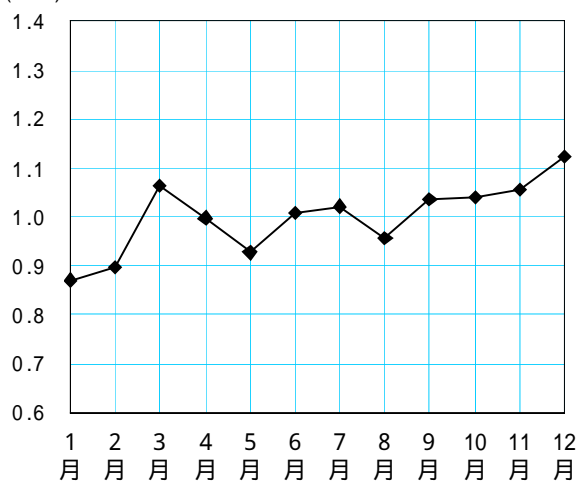
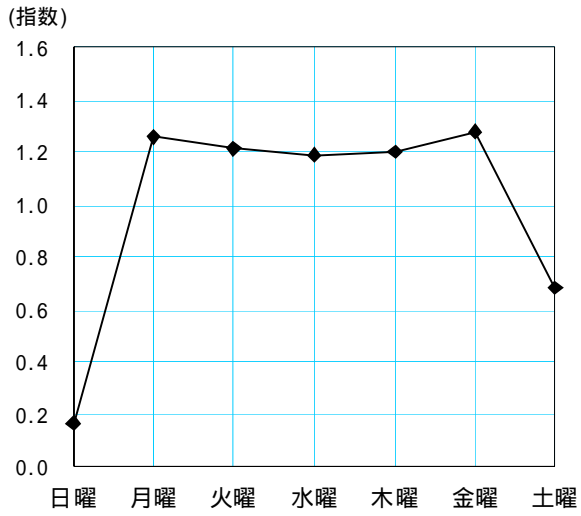
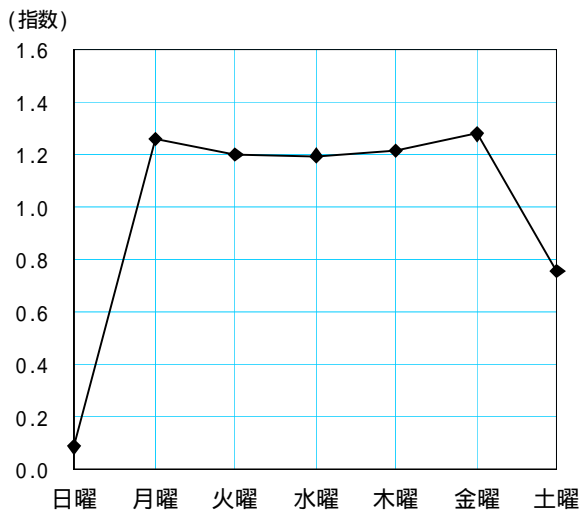


図3 - 3 - 49 発産業別に見た曜日別出荷波動（年間調査）

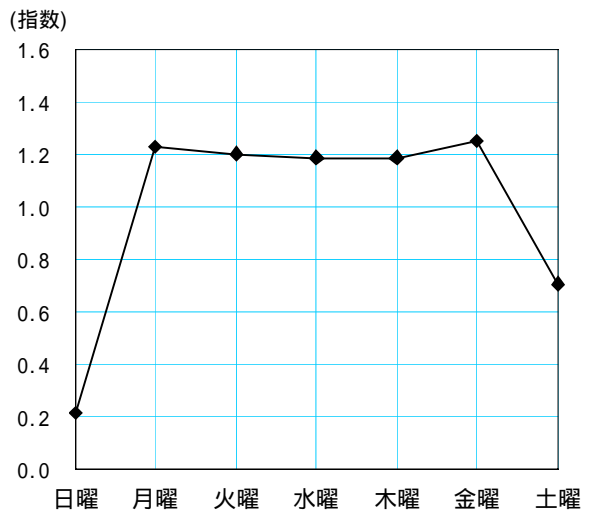
合計



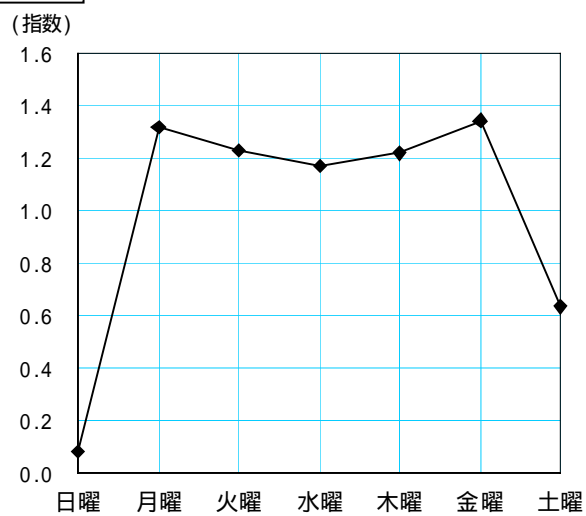
鉱業



製造業



卸売業



倉庫業

